

## くまびょう

138号

NEWS

くまびょう  
NEWS2008年  
12月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

## 熊本市災害医療福祉訓練が実施さる

平成10年より毎年行われている熊本市災害医療福祉訓練が11月15日（土）に行われました。熊本地方を震源とするマグニチュード7.2、震度6弱の地震が発生し、倒壊した建物等により被災した傷病者約100名が病院につめかけるという想定で行われました。自主参集した230名の職員は、本番さながらの真剣な表情で、トリアージされた傷病者への対応にあたっていました。模擬傷病者は当院の看護学生の他、陸上自衛隊西部方面衛生隊の隊員の方々、熊本保健大学の学生さんにも参加頂きました。皆さんリアルなメイクをして傷病者になりきった迫真の演技を見せて頂きました。自主参集から解散まで約3時間に及ぶ大変実践的で有意義な訓練でありました。



高橋毅重症・中等症応急救護所責任者の説明

当院は繁華街に隣接している救命救急センターであるため、災害時には多くの傷病者がつめかけることが予想されます。来年完成する新病院の救命救急病棟は50床で稼働予定ですが、災害時には100床対応する機能をもたせてあります。また、実際の災害時には国立病院機構災害医療ネットワークを通じてDMAT隊、災害医療救護班が発災後直ちに救援にかけつけます。

病気は予防出来ますが災害は予防出来ません。しかし、適切な対応で被害を最小限に抑えることは可能です。いつかこの訓練が役に立つ時が来るかもしれません。

(救命救急部長 高橋 毅)



トリアージ現場

## 国立病院機構熊本医療センターは

- 1、最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
- 2、人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
- 3、教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
- 4、国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
- 5、健全経営に努め、医療環境の向上を図ります





## “こどもに優しい医療”をめざして

えとう小児科クリニック  
院長 江藤 仁治



えとう小児科クリニックの江藤と申します。当院は熊本医療センターのお膝元の島崎で開業して約16年経ちました。いつも急患の入院依頼や、夜間の救急患者受け入れなども快く引き受けて頂き、熊本医療センターの先生方には大変感謝しております。小児科開業医にとって、いつでもバックアップして頂ける病院があるというのは心強く、また患者様から信頼を得られるひとつの条件でもあると思っております。

ます。その反面、とくに小児科の先生方には時間的にも、肉体的にも大変なご苦勞をおかけしていると存じます。昨今の日本の小児救急の現状をみますと病診連携のとれた熊本市は子どもたちにとっては比較的恵まれている地域かと思えます。

ちなみに、熊本市の小児科基幹病院は5病院ありまして、それぞれ一般小児科と専門分野を担当されお互いにバランスよく運営されています。そして小児救急に関しても全国的に先駆けて、開業医と勤務医が参加して一緒に行く、いわゆる「熊本方式」の24時間対応の救急医療体制を構築しております。その中で、熊本医療センター小児科の先生方は血液疾患、悪性疾患、アレルギー疾患など専門分野はもちろん、一般小児科、小児救急などで日々活躍されています。また、お忙しい中、開業医向けの勉強会「火曜会」を長年開催され、詳しい症例報告やトピックスなどを提示して頂いております。毎日の診療に追われることが多い中、新しい医療の一端でも勉強できることは開業医にとっては貴重な時間だと感謝しております。

最後に、これからも“こどもに優しい医療”を提供するために、我々開業医は今後も病診連携を密にし、先生方に頼るだけでなく、先生方のご負担が軽くなるようもっと努力しなければいけないと思っております。

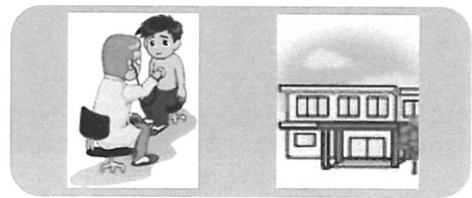
## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

(経営企画室長 堤内 俊一)

### 紹介患者様FAX時間予約のお願い



FAXにて  
希望の日時を  
申込下さい。

予約時間を  
返信いたし  
ます。





俵 哲

神経内科

日本神経学会専門医  
日本内科学会認定医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本内科学会指導医



高松孝太郎

神経内科、脳血管障害



田北 智裕

神経内科、脳血管障害

日本神経学会専門医  
日本内科学会認定医



幸崎弥之助

神経内科、脳血管障害

日本神経学会専門医  
日本内科学会認定医

像や検査所見に対する研究や貴重な症例等について、日本神経学会、日本脳卒中学会、その他の研究会等に発表しております。

## 診療実績

平成19年度の新入院患者数は522人です。前年度より62人増加しています。平均在院日数は14.1日となっております。

## ご案内

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、骨格筋が障害される疾患を扱っています。外来診療に関しましては、木曜日以外の平日を俵哲医長、火曜日の午後は高松医師、木曜日は田北医長、金曜日の午後は幸崎医師が担当しています。入院診療に関しましては、田北・幸崎・高松の3名のスタッフにて診療しております。

時間外及び休日の急患につきましては、on call体制にて対応しております。

当科に関連すると思われるような疾患につきましては、いつでも御紹介、御相談いただければ幸いです。

## 診療内容と特色

神経内科疾患全般を取扱っていますが、当院が救急病院ということもあり、入院中心の診療を行い、脳梗塞、てんかん、髄膜脳炎などの救急疾患が多い特色があります。また、当施設は脳梗塞超急性期における血栓溶解療法にも対応しております。

外来では、パーキンソン病を含めた神経難病や、頭痛・めまいなどの機能性疾患についても幅広く対応しております。日本神経学会教育関連施設、日本脳卒中学会認定教育病院に認定されています。

## 研究実績

日常臨床を重視して、様々な神経疾患症例の臨床研究を行っています。脳梗塞などの救急疾患における画

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

## 最近のトピックス

### 胸部大動脈瘤に対する ステントグラフト内挿術



心臓血管センター  
心臓血管外科医長

岡本 実

大動脈瘤の治療は外科手術を原則としていますが、手術は開胸を行い、人工心肺装置を要するなど手術侵襲が極めて高く、また、適応となる患者は高齢で、心疾患、呼吸器疾患、中枢神経系疾患などを合併する症例が多いため、手術の選択には制限があります。このため最近ではステントグラフトを用いた経カテーテル的血管内治療（ステントグラフト内挿術）が臨床導入され、低侵襲治療として期待されています。

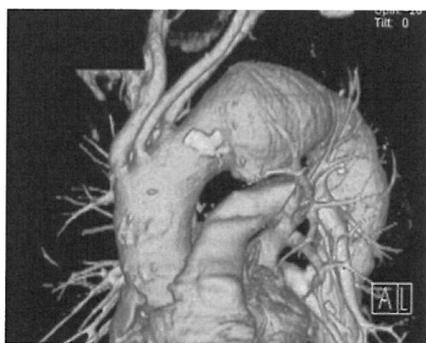
腹部大動脈瘤に対しては、2006年から日本でも保険適応となり、すでに多くの施設で施行されていますが、胸部大動脈瘤に対しては、形態学的、血行力学的特性を考慮した新たなグラフトの作成が必要とされます。

実際には、約7mm径のカテーテル内にステントグラフトを装填し、開胸は行わず、切開した大腿動脈から透視下で直接血管内へ挿入し、動脈瘤前後の大動脈壁に人工血管を内腔から圧着させ、動脈瘤への血流を遮断し破裂を予防する方法です。

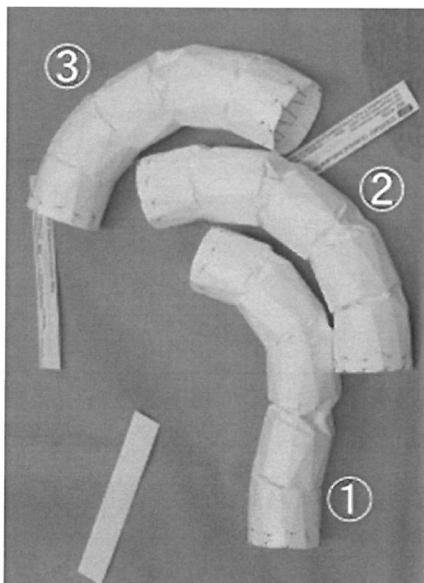
ステントグラフトと血管壁の圧着部分が瘤の前後で必要なため、適応となる動脈瘤は遠位弓部大動脈瘤から胸部下行大動脈までで、上行大動脈から弓部大動脈は適応外です。当院では、2004年度からこれまでに12例の症例に施行してきました（くまびょうNEWS No.85）。内訳は胸部大動脈瘤が7例、慢性動脈解離3例、下行大動脈破裂2例です。平均手術時間は168±57分で、輸血も3例のみで、10例が手術室で抜管でき、待機手術では術翌日から食事摂取、歩行も可能で、創痛もほとんどありませんでした。従来的人工心肺を用いた手術術式に比し圧倒的に低侵襲手術であるといえます。

しかし、動脈と人工血管を直接吻合する手術と違い、ステントグラフトが動脈壁にうまく圧着できない、いわゆるエンドリークが術後に発生する可能性がありますので、定期的な経過観察が必要とされます。

ステントグラフト内挿術は低侵襲治療ですが、今後、更に改良が必要な治療法です。



術前 3DCT



ステントグラフト



術後 3DCT (ステントグラフト挿入後)

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 36回



内科部長 清川 哲志

「造血幹細胞移植の予後因子の解析と移植関連死亡予測システムの開発」に関する研究

血液疾患の分野では、造血幹細胞移植が様々な疾患に対して行われ本院の血液内科では年間約40例から50例の移植を行っています。移植では、化学療法や放射線療法を行った後で同種の造血幹細胞を輸注しますが、これまでの強力な骨髄破壊的前処置（MAC）に加えて骨髄非破壊的前処置（ミニ移植：RIC）が導入され高齢者や合併症を持つ患者への移植が飛躍的に増加しています。骨髄破壊的、非破壊的の前処置の選択は年齢と病態でなされていますが明確な基準はなく、個々の症例に於いてその施設の考え方で決定されています。今回の研究では、国立病院機構の病院で2000年から2005年に行われた同種移植415例を解析しMAC群とRIC群における100日生存、300日生存、合併症の予後因子を明らかにし、前処置の選択に役立てることを目指しています。

100日生存は、早期移植関連合併症の感染症、VOD（肝障害）、GVHDによる影響が大きいですが、MAC群ではPSとアルブミン、タクロリムスの使用の有無が予後因子となりました。PS、アルブミンは、移植の負担を乗り越えるために必要な生理的機能を表す大切な指標と考えます。タクロリムスは今回のMAC群には血縁、非血縁移植が含まれており、このためタクロリムス使用群に非血縁移植が多く含まれるためではないかと考えます。

RIC群の予後因子はアルブミンのみが予後因子とされており、リスクの高いRIC移植では移植前の生理的機能の重要性を認識させられました。

300日生存は、移植合併症と疾患の再発が大きな因子となります。MAC群では病期の寛解、非寛解が予後因子となっています。さらに前処置でAra-Cの使用

が危険性を増す因子としてあげられますが、これはMAC移植に於いてAra-Cを追加することは再発可能性が高い症例で選択されており、このような背景を表していると考えます。今回の解析では、年齢や疾患名は予後因子となりませんでした。

予後因子とオッズ比から、ある症例でのMACとRICにおける100日生存率と300日生存率が予測可能です。この算出された生存率を比較して移植前処置の選択に用いることができます。

さまざまな予測因子が明らかとなりましたが、日々進歩している移植治療に於いては、予測因子やそのオッズ比が絶えず変化していると考えerべきです。今後の取り組みとしては、移植症例の詳細なデータを毎年登録し、継続的に解析することで、最新のデータをもとに移植方法の選択を行えるようなシステムを構築していきたいと思っております。

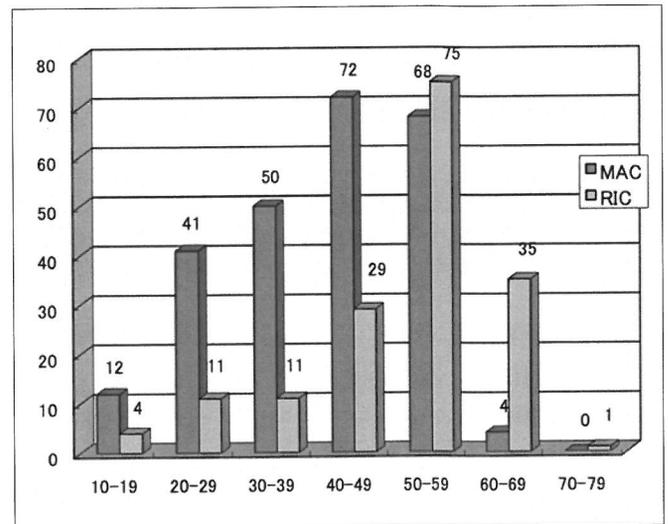


図 年齢別移植件数：骨髄破壊性前処置(MAC)とミニ移植(RIC)

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 専修医レポート



専修医  
門脇 嘉宣

あれ、まだいたの？と感じる方も院内にはおられるかと思いますが、当院での2年間の初期研修を修了した後、今年の4月よりそのまま当院の耳鼻咽喉科の専修医として残留しております。普段は院内でも限られた範囲でしか動いておりませんが、たまに院内往診などで輪っか（額帯鏡）を白衣のポケットからぶら下げながら現れます。2年前までは自分でも想像だにしていなかったのですが、研修医時代にひょんなことから2ヶ月間研修した科が、そのまま自らの専門の道となってしまいました。

耳鼻咽喉科はいわゆるマイナーな科ではありますが、人間の5感のうち視覚以外の4感に強く関わり、またご存知救急のABCの始めであるAirwayのほか、発声・嚥下の機能や、頭頸部癌全般も診療範囲に含まれます。

患者さんの生命そのものとQOLのどちらにも強く影響し、また乳児からご高齢の方までとその対象年齢層が全てとも言える点は、自分には大変面白く感じています。

現在、私は外来・手術・病棟処置と向き合う毎日です。外来では週1回を新患で、週2回を再診の担当として、手術では様々な症例の助手に加えて扁桃摘出、喉頭微細手術や気管切開などの術者として、病棟ではめまいや突発性難聴の方から鼓膜・鼓室形成術の方、頭頸部癌の方の担当医としても務めております。いずれの場面でも、緒方憲久医長を始めとする当科の先生方にご指導・ご助言賜わりながら、また他のスタッフの方々に支えてもらいながらの診療です。患者さんに喜んで頂ける場合もあれば、そうでない場合も沢山あります。自らの知識や技術の未熟さを痛感する毎日ですが、日々経験や努力を重ねて、喜んで頂ける患者さんを少しでも増やしていければと思っております。

普段、私と関わっている方々やご紹介頂いている先生方には、ご不安やご迷惑をおかけしていることも多々ございますでしょうが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどを宜しくお願い致します。

## ●平成21年度 専修医(後期臨床研修医)を募集します●

応募資格：2009年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者

研修期間：3年間（希望により5年間）

募集人員：内科系総合専修コース・外科系総合専修コース各若干名

給 与：当院規定による

宿 舎：レジデントハウス（25㎡）平成21年3月完成予定

選考方法：書類審査、面接等

願書締切：二次 平成21年1月31日（金）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 鶴見

TEL096-353-6501（代）内線621 FAX096-325-2519

詳細についてはホームページをご覧ください。

<http://www.hosp.go.jp/~knh>



# ■ 研修のご案内 ■

## 第113回 看護卒後研修〈会費制〉

日時▶平成20年12月13日(土)13:30~16:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター附属看護学校2F教室

演題「感染対策とリスクマネジメント」

福岡記念病院感染制御部長 向野 賢治 先生

お申込みは締め切らせて頂きました。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副看護部長 杉原三千代 TEL 096-353-6501(代表) 内線(656)

## 第119回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成20年12月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 1. 呼吸器内科による胸部X線写真真偽

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介

### 2. 持ち込み症例の検討

### 3. 症例提示

「冠動脈2枝完全閉塞を一時的に治療し、心原性ショックVTstormから救命できた急性心筋梗塞の1例」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 宮尾 雄治

### 4. ミニレクチャー「発熱、血球減少：血球貧食症候群について」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 河北 敏郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第88回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成20年12月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 1. 『持効型溶解インスリンアナログ製剤と速効型食後血糖降下薬の併用で血糖改善を認めた2型糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 児玉 章子

### 2. 『Blue Toe症候群をきたした2型糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 金澤侑右子

### 3. 『糖尿病患者のフットケア』

国立病院機構熊本医療センター看護部外来副看護師長 大岩真由美

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線705

## 医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課(TEL096-353-6501)迄ご連絡下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで

2008

年

## 研修日程表

12

月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修ホール	教育研修棟 4階	その他
1日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
4日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
5日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
6日(土)	14:00~16:00 第1回 市民のための健康講座(公開) 「もっと知りたい肝臓の話 ~肝臓で広がる地域の和~」		
8日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
9日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
10日(水)	18:00~19:30 第55回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルバス研究会(公開)		
11日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
12日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
13日(土)	13:30~16:30 第113回 看護卒後研修<会費制> 「感染対策とリスクマネジメント」 福岡記念病院感染制御部長 向野 賢治 (※今回は看護学校2階教室で行います)		
15日(月)	19:00~20:30 第119回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
18日(木)	19:00~20:45 第88回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
19日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
22日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
26日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C

(会) 会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)